

## 平成 28 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会 第 2 回委員会 議事録

1. 日時：平成 28 年 12 月 15 日(木)10:00～11:20
2. 場所：文京シビックセンター 会議室 B(東京都文京区春日 1-16-21 5 階)

### 3. 出席者：

委員長	宮澤 彰	国立情報学研究所
委員	松田 稔広	国立国会図書館収集書誌部
	原田 智子	鶴見大学
	木俣 洋一	一般社団法人日本出版インフラセンター
	追川 正人	一般社団法人日本音楽著作権協会
	秋元 良仁	凸版印刷株式会社
	駒崎 武一	一般財団法人角川文化振興財団
	畑 陽一郎	一般社団法人日本レコード協会
	前沢 克俊	大日本印刷株式会社
事務局	光富 健一	一般社団法人情報科学技術協会

(敬称略・順不同)

\*丸山信人委員、小出啓介委員は欠席。

### 4. 配布資料：

P.3-8	平成 28 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会第 1 回委員会議事録
P.9	資料 1-1 WG1 報告
P.10-13	資料 1-2-1 平成 28 年度第 1 回 ISO/TC46/SC9 WG2 委員会記録
P.14	資料 1-2-2 WG2 報告
P.15-17	資料 2-1 平成 28 年度 ISO/TC46/SC9 投票済案件
P.18-19	資料 2-2 平成 28 年度 ISO/TC46/SC9 審議案件
P.20-35	資料 3 平成 27 年度成果報告書
P.36-37	資料 4 ISO/TC46/MA N897

### 5. 議事：

- 1) 平成28年度計画進捗状況について  
資料1-1～1-3に基づき宮澤委員長より説明。

### 1-1) デジタルアーカイブ利活用のための国際標準化

資料1-1は前回の国内委員会以降の活動を整理したもの。SC9事務局からは9/14にコメントが届き、指摘箇所を反映したものを再度送付した。SC9事務局のシステム上の設定ミスもあり、9/29から投票が開始された。期限は1/29まで。投票終了まで時間が空くため、11/29に宮澤委員長より5ヶ国のメンバーにNWIPの承認後にWGのメンバー（Expert）を出すよう検討を依頼した。

今後の予定としては、投票終了後に速やかにExpertメンバー用のメーリングリストを作成して登録する。順調に進めばSC9WG14として3月頃の発足になる見込み。ただし、ISOの投票規定が今年から変更されたため、投票終了後に2週間のExpert推薦のための期間が設けられるかもしれない。その後、WGでの検討を行い9月頃にCD案を完成させたい。CD案はSC9事務局でフォーマットを作成するため、手続き不備や理由なく遅滞することがないように注視したい。

### 1-2) デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子

資料1-2-2は前回の国内委員会以降の活動を整理したもの。CD投票は7/16に締め切られ、賛成15、コメント付き賛成3、反対1、棄権12で承認され、DIS案作成に着手した。コメントはフィンランド、カナダ、イギリスから送られたが、実際はアメリカからも届いた（ISOの投票システムで投票時にコメント欄に記載すると、コメント付き賛成にはカウントされない）。11/2に国内WG2を開催し、コメント内容を精査し回答方針を検討した。コメントの多くは、ILIIの前半部分にISCIを使用し、かつ“.”が含まれた場合に、区切り記号としての“.”とどう区別し対応するのかについてであった。WGで検討を行い、あまり複雑にならずに曖昧さを回避する方法を追記することとなった。その後、指摘の多かったフィンランドの担当者（Juha）と個別に協議を行い、その内容を反映した。

今後は、12/16までに国際WG13で確認し、12/20にDIS投票用の最終案をSC9事務局に送付する予定。SC9事務局からISO中央事務局（以後、CSとする）に送付され、DIS投票が開始される。おそらく2月頃にDIS投票が開始され、3か月後の5月には締め切られるのではないかと（フランスが仏語訳作成を希望した場合は+2か月）。

DIS投票に際して日本の事務局で行うことはあるか？

DIS案はWG13から送付するため、日本の事務局での作業はない。

### 1-3) デジタルアーカイブ国際標準化活動のための環境整備

報告事項はなし。

## 2) ISO/TC46/SC9国内審議

資料2-1、2-2に基づき宮澤委員長より説明。

資料2-1は今年の4月以降の投票済み案件について。

ISBNはDIS投票が承認されたが、改訂版が出版(publish)されたという連絡がない。

出版に関しては特段の連絡等はなかったように思う。

WGのコンビーナ宛にCSから連絡があったりしないのか？

コンビーナもCSに確認しないと分からないと思う。過去の標準化活動でも、そうした連絡を受けた記憶がない。

事務局がISBN規格をダウンロードして確認すればわかるか？

それで内容が改訂されていれば出版されたことがわかる。ただし、JIS等の標準開発のためや国内審議の検討に使用する場合などを除いて配布することは許されていない。JIS規格の改訂については本委員会のメンバーを中心に行うことになるが、ISOの出版が端緒となるため、事務局の方で定期的にチェックしてほしい。

週次程度で確認する。

本委員会でJIS規格の改訂経験がある方は？

ISO 3901 (ISRC) Ed.2の時にJIS化の経験がある。ただし、その時は日本規格協会が主導で行われた。

ISRCもDIS投票が7/6に承認された。一部コメントもあったが回答も提示済みのはず。残る課題となっていた各国RAの記載を規格本体に残すかどうかは、TMB投票にかけられていたが、12/13に小出委員より承認された旨の連絡があった。ISRCの改訂作業としてはこれで終了となる。

こちらもいずれ出版されればJIS化の作業を行うことになる。来年春以降になると思われる。日本規格協会が行うJIS化の公募が年3回あるため、応募する時期は出版の時期で決まる。

資料2-2は現在審議中の投票案件について。

NO.9は日本から提案中のもの。NO.10は前回の委員会で近々NWIPが出ると言っていたもので、論文のリファレンスの書き方を規定した規格で、SIST02等との関係がある。

11/11に宮澤先生から原田委員に取りまとめを依頼されている。

これから内容を確認する。

本規格は学術雑誌の世界では広く参照されているが、SIST02とISO690の関係があいまいで、SISTは検討主体がなくなってしまった。しかしSIST02だけは比較的国内で参照されている。ISOの回答を送るだけではなく、国内で今後どうするかも検討すべきであろう。

現実にはどの程度使われているか？

例えば学生の卒論指導などでは、SIST02を参照するよう指導している。INFOSTAの会誌も準拠していたと思う。

国内学会で小さいところはSIST02を参照しているところは相当数ある。大手学会は独自

の規定を有している。専用の商用ソフトもあり、特定のフォーマットで引用論文を記載できる。それなりに大きな規格なので検討をお願いしたい。年明けにMLで議論を行い、1月末には回答を取りまとめたい。

3) 平成28年度成果報告書について

資料3に基づき事務局より説明。

資料3は昨年度に三菱総研に提出した成果報告書。今年度も2月末までに作成して提出する必要があり、ご協力いただきたい。P.25に目標の記載があり、今年度も同じ目標を設定しているため、それに対する活動成果を記載する必要がある。WG1、WG2に対応する内容と、各SCの活動がデジタルアーカイブの国際標準化活動にどう役立ったかを記載している。

成果報告書は各SCの主査とTC46親委員会のメンバーで取りまとめを行うため、おそらくSC9の各委員の皆様には直接お願いすることはない。現在のTC46各委員会の活動は、デジタルアーカイブの利活用のための国際標準化活動の名目で経済産業省から三菱総研を経由して予算を得ている。各SCにおける国内審議活動はそのための環境整備であり、デジタルアーカイブの国際標準化活動を助けている、という構造になっている。

経済産業省の認識としては、基礎的な国内の審議活動は各業界団体が先行し、より戦略的に日本の産業に役立つような国際標準を提案・開発すること予算を付けるというストーリーができています。しかし実際には業界団体だけで審議活動に対応できるのは工業系等の大きな団体だけで、それ以外の業界は経産省の予算を通じて国際標準化活動を行ってきたため、現実との齟齬が生じている。そのため、新しい規格の開発を名目として予算を獲得し、それを国内審議活動の費用に充てるという構造が生じている。TC46は関係者が多岐に渡るが、これといった業界団体がないのが現実である。

三菱総研への報告期限は2月下旬だったと思うが、確認しておく。

4) その他

資料4に基づき宮澤委員長より報告。

SC9に直接関係するものではないが、ISO 3166 (国名コード)に関する資料。ISO3166-1が国名及び地域のコード、3166-2が(日本で言う)都道府県名コード、3166-3が廃止になったコードのリスト。ISO/TC46WG2が標準の中身を開発しており、コードのメンテナンスはISO 3166 MA (Maintenance Agency)が担当し、CSが直接行っている。メンバーは、長くドイツ・アメリカ・フランスと国連関係のいくつかのリエゾン団体が占めていたが、今年TC46内で3枠を公募した。日本も応募を行い、宮澤が個人でメンバーとなった。来年2月にその会議があり出席する予定。なお公募には日本と中国しか応募しなかった。後々に何かあった時に備えてプレゼンスの確保という意味で、参加に意味があると考えます。

(以上)